

別紙（新庁舎建設予定地ボーリング調査データ）

ボーリング調査位置図

ボーリング柱状図（No.1 地点）

ボーリング柱状図（No.2 地点）

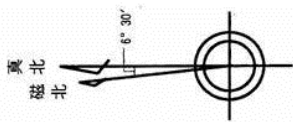
ボーリング柱状図（No.3 地点）

地質想定断面図

液状化判定結果（No.1 地点）

液状化判定結果（No.2 地点）

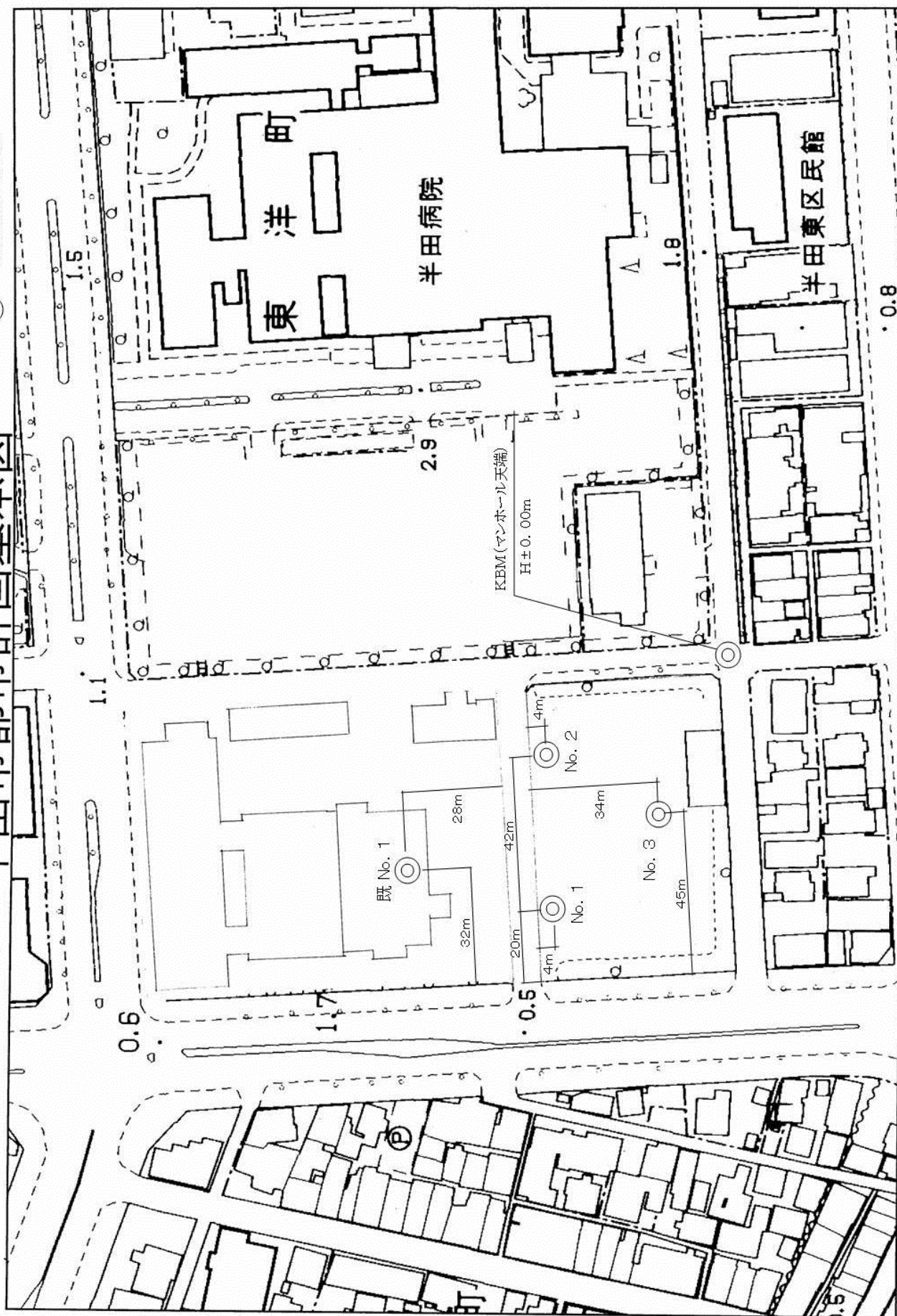
液状化判定結果（No.3 地点）



ボーリング調査位置図

半田市都市計画基本図

◎ : 地盤調査位置 (3箇所)



「この測量成果は、建設省国土地理院長の承認及び助言を得て
同院所管の測量標及び測量成果を使用して得たものである。」
(承認番号) 平12 部公 第92号

1. 平成12年 8月撮影空中写真
2. 平成12年 10月現地調査

昭和63年測量
平成12年修正


ボーリング柱状図

調 査 名 新庁舎建設予定地地盤調査委託その 1

[illegible]

事業・工事名

シート No.

ボーリング名	No. 1		調査位置		半田市東洋町二丁目1番地				北 緯 34° 53' 18.6"		
発 注 機 関	半 田 市 役 所				調査期間	平成 18年 10月 6日 ~ 18年 10月 11日				東 経 136° 56' 26.5"	
調査業者名	株式会社キヤン地質センター名古屋支店 電話 (052-741-3393)		主任技師		砂口 親市	現 場 代 理 人	服部 克司	コ ー デ ィ ン グ 者	砂口 親市	ボーリング 責任者	佐本 直宏
孔 口 標 高	H -0.14m	角			方 向	北 270° 西 180° 南 90° 東	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90°	使用機種		
総掘進長	19.36m	度				試錐機	カノ製 KR-100H型	ハンマー 落下用具		コーンブリー	
						エンジン	ヤンマー製 NFD-9型	ポンプ	カノ製 V5-P型		

標高	層厚	深度	柱状土質区分	色相対密度	相対稠度	記号
(m)	(m)	(m)	(m)	(m)	(m)	(m)
-0.49	0.35	0.35	表層5cmのアスファルト。 砂は粗砂が主体である。	黒 褐	非 常に 硬い	表面5cmのアスファルト。 砂は粗砂が主体である。
-1.24	0.75	1.10	砂質シルト	灰	非常 に硬い	含水率やや多い。 細砂を含む。 粘性強く、軟質である。
-1.94	0.70	1.89	シルト混り砂	灰	非常 に硬い	含水量やや多い。砂は中砂が主体である。 微砂片多く含む。 下部に微細砂が多くなる。
-5.44	3.50	5.39	砂質シルト	灰	軟らかい	含水量やや多い。 微砂・腐植物混入。 粘性があり、軟質である。
-6.44	1.00	6.39	砂質シルト	灰	軟らかい	含水量やや多い。 微砂・腐植物混入。 粘性があり、軟質である。
-11.94	5.50	11.89	シルト混り砂	灰	非常に硬い	上部に砂の混入が多い。 含水量中位～やや多い。 微砂片が少量混じる。 本層中に細砂が混入する。 40mm付近より均質なシルトになる。 粘性強く、軟質である。
-12.84	0.90	12.79	シルト混り砂	灰	非常に硬い	含水量中位。砂は細砂が主体である。 全体的にシルトを含む。 微砂片が少量混じる。 最大粒径φ50mm程度である。 隙間は中～粗砂。含水率多い。
-13.64	0.80	13.59	砂質シルト	灰	密な	
-17.04	3.40	16.99	固結シルト	灰	固結した	含水量やや少ない。 固結状態を呈す。 粒子均一。 砂は細砂で不規則に混入する。
-18.64	1.60	18.59	固結砂質シルト	灰	固結した	含水量中位。 固結している。 砂は細砂である。 粒子均一。
-19.50	0.80	19.39	泥混り砂	灰	非常に密な	隙間2mm程度が混入する。 含水量やや多い。 砂は中砂～粗砂である。

掘進月日

標準貫入試験

N値 50

原位置試験

試料採取

深さ (m)

試験名 および結果

深さ (m)

試料採取方法

室内試験 ()

19/10

深さ 14m

ボーリング柱状図

調 査 名 新庁舎建設予定地地盤調査委託その1

事業・工事名

[illegible]

ボーリング名	No. 2		調査位置		半田市東洋町二丁目1番地				北緯		34° 53' 18.7"	
発注機関	半田市役所				調査期間	平成 18年 10月 11日 ~ 18年 10月 13日				東経	136° 56' 28.1"	
調査業者名	株式会社キンキ地質センター名古屋支店 電話 (052-741-3393)		主任技師	砂口 親市	現代人	服部 克司	鑑定者	砂口 親市	ボーリング責任者	笹本 直宏		
孔口標高	H=0.10m	角	180上 0 10m 下		方	北 270西 90東 180南		地盤勾配	鉛直 90° 水平 0°		使用機種	
総掘進長	20.36m	度	90°		試錐機		カノ製 KR-100H型		ハンマー 落下用具		コーンブリー	
					エンジン		ヤンマー製 NFD-9型		ポンプ		カノ製 V5-P型	

[illegible]

深さ 15m





ボーリング柱状図

調 査 名 新庁舎建設予定地地盤調査委託その 1

[illegible]

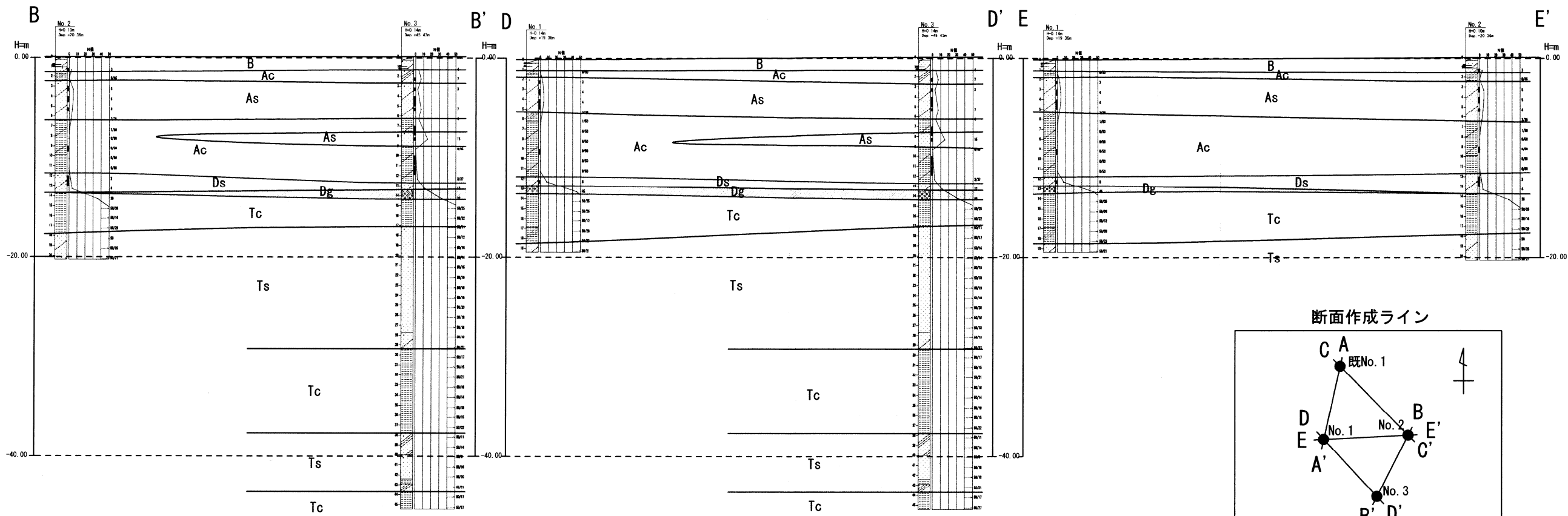
事業・工事名

シート No.

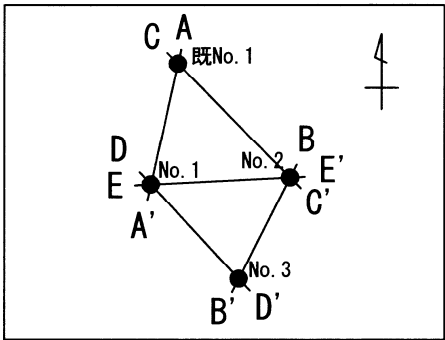
ボーリング名	No. 3		調査位置		半田市東洋町二丁目1番地							北緯	34° 53' 17.7"					
発注機関	半田市役所					調査期間		平成 18年 10月 13日 ~ 18年 10月 27日					東経	136° 56' 27.5"				
調査業者名	株式会社キヤン地質センター名古屋支店 電話 (052-741-3393)		主任技師		砂口 親市	現代人場	服部 克司	コシ定ア者	砂口 親市	ボーリング責任者	深井 卓二							
孔口標高	H=0.14m		角				方	北 0° 西 270° 南 180° 東 90°		地盤勾配			使用機種	試錐機	吉田鉄工所製 YBM-05型	ハンマー落下用具	コーンブーリー	
総掘進長	45.43m		度				向	北 0° 西 270° 南 180° 東 90°		地盤勾配			エンジン	ヤンマー製	NFD-9型	ポンプ	カノ製	V5-P型

[illegible]

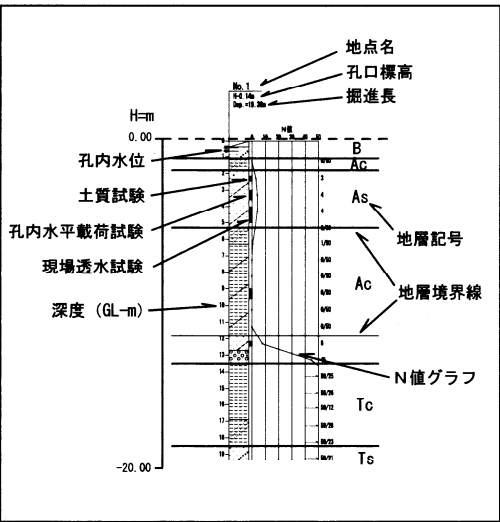
地質想定断面図



断面作成ライン



凡 例



地質凡例

地質時代	地層名	土質名	地層記号
現 世	盛 土	礫質土	B
		砂質土	Ac
完新世	沖積層	粘性土	As
		砂質土	Ds
更新世	段丘堆積物	礫質土	Dg
		砂質土	Ts
鮮新世	常滑累層	粘性土	Tc

工事名	新庁舎建設予定地地盤調査委託その1		
図面名	地 質 想 定 断 面 図		
年月	平成18年11月		
尺度	S=1:200	図面番号	1-1
会社名	株式会社キンキ地質センター名古屋支店		
事務所名	愛知県 半田市役所		

液状化判定結果 (No. 1 地点)

No. 1地点

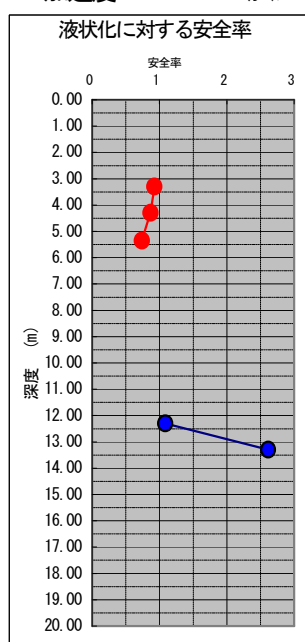
[illegible]

安全率 (F_L) < 1 の部分が、液状化の可能性がある地層である。

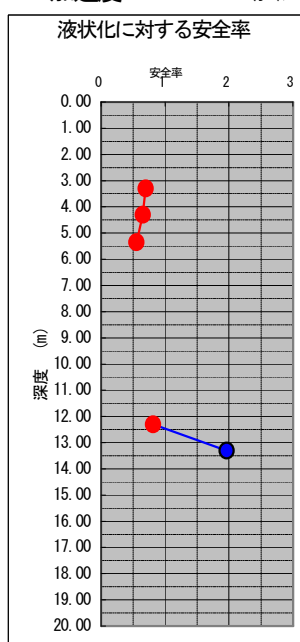
(判定欄で「OUT」の部分)

No. 1地点

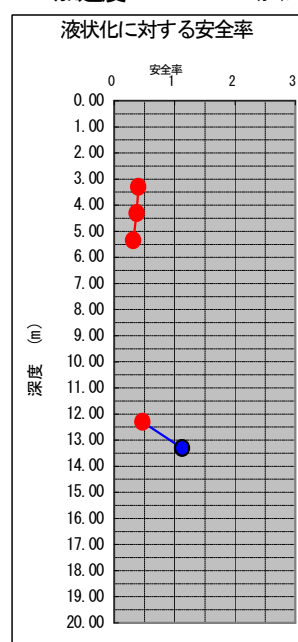
加速度 $\alpha_{\max}=150\text{ガル}$



加速度 $\alpha_{\max}=200\text{ガル}$



加速度 $\alpha_{\max}=350\text{ガル}$

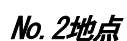


液状化判定結果 (No. 2 地点)

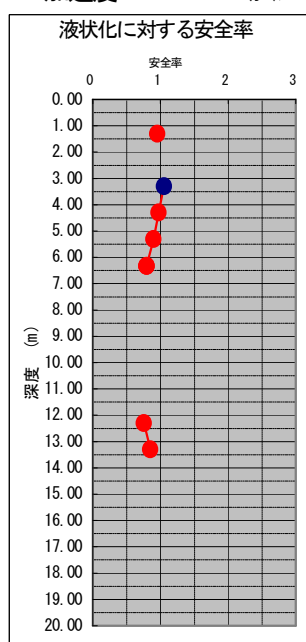
[illegible]

安全率 (F_L) < 1 の部分が、液状化の可能性がある地層である。

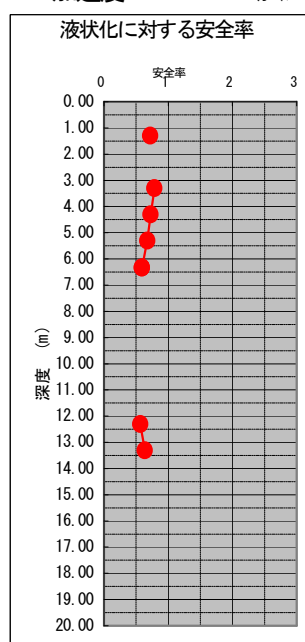
(判定欄で「OUT」の部分)



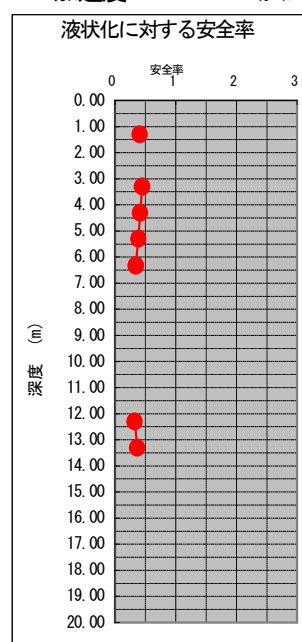
加速度 $\alpha_{\max}=150\text{g}$ ル



加速度 $\alpha_{\max}=200\text{ガル}$



加速度 $\alpha_{\max}=350\text{ガル}$



液状化判定結果 (No. 3 地点)

[illegible]

安全率 (F_L) < 1 の部分が、液状化の可能性がある地層である。

(判定欄で「OUT」の部分)

No. 3地点

αmax=150ガル

加速度 $\alpha_{\max}=200$ ガル

加速度 $\alpha_{\max}=350$ ガル

